

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：34401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2019

課題番号：26463579

研究課題名（和文）高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of an effective childcare support program that emphasizes community connections with the participation of elderly generations

研究代表者

草野 恵美子（Kusano, Emiko）

大阪医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：70346419

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究目的は高齢者世代による地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムを検討することである。様々な検討の結果、最終的には支援者となる高齢者自身の健康への寄与も念頭に置き、地域とのつながりが薄く、退職後の健康保持等が課題となっている男性高齢者に焦点を当てることとした。男性高齢者へのアンケート調査や関係機関からの意見収集等を経て、男性高齢者対象地域子育て支援入門研修プログラムの検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義として、高齢者を地域で支援される存在としてとらえるのではなく、少子高齢社会における子育て支援に貢献する人材として示した点が挙げられる。さらに、高齢者の中でも地域とのつながりが薄くリスクを抱えやすい一方で、豊富な経験・能力を有する男性高齢者に焦点を当て、ニーズや子育て支援参加にあたって必要な要素等を把握し、子育て支援に意欲がある男性高齢者の参加を促進する研修プログラムを具体的に提示した点が挙げられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine an effective child-rearing support program that emphasizes community ties by the elderly generation. As a result of various considerations, we decided to focus on elderly men who are less connected to the community and who face challenges such as maintaining their health after retirement. This is because, finally, it aims to contribute to the health of the elderly themselves. Based on the results of a survey of older male respondents and the collection of opinions from relevant organizations, we discussed an introductory training program for older males to support child rearing in their communities.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：子育て支援 高齢者 地域組織 シニア 社会貢献 地域貢献 社会活動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国において、少子高齢化は深刻な社会問題の1つである。研究開始当初の状況として、総務省(2013)によると、2012年4月現在の年少人口割合は12.9%と減少傾向を続けていた。また合計特殊出生率は2012年では1.41であり、近年若干の上昇傾向がみられるものの、わが国において人口維持のために必要な水準である約2.1を大きく下回っていた(厚生労働省、2012)。この傾向は現在なお続いている。

少子化の進行に伴って、育児ストレス(日下部ら、1999; 奈良間ら、1999; 野口ら、2005)やその他育児に関わる問題は増加している。育児ストレスについては、母親の抑うつや児童虐待などとの関連についても報告されている(Naerde et al, 2000; McCurdy, 2005; Misri et al, 2006)。また、育児に関する不安が高い母親ほど社会的な支援を受けていないことも報告されている(Arimoto & Murashima, 2007)。よって、母親の育児ストレスの軽減や精神的健康の向上は重要な公衆衛生上の課題となっている。

同時に、急速な高齢化が進むわが国においては、高齢者世代の精神的健康の向上も喫緊の課題となっている。特にうつ状態は、高齢者の自殺の原因・動機の上位に挙げられているとともに(警察庁、2012)、生活の質を増悪させるのみでなく、身体機能低下のリスクであることも多数報告されている(van Gool et al., 2005)。また介護予防事業にうつ予防支援が挙げられるなど対策が急がれている。中でも、地域における社会活動は、抑うつと関連する重要な要因と指摘されている(出村ら、2003)。従って、高齢者の地域における社会活動を促進することは、高齢者の精神的健康の向上に寄与する可能性があると同時に、介護予防を推進する観点からも重要と考えられる。

少子高齢社会における地域社会全体での子育て支援策の1つとして、研究代表者は高齢者世代の住民による地域のつながりを重視した子育て支援と健康への効果について研究を進めてきた。まず前提として、子育て世代は親族以外の高齢者世代の住民から日常的にはほとんど支援を受けていない現状を確認できた(草野ら、2009)。さらに、地域のつながりの強化を目的とする高齢者世代による子育て支援活動への参加頻度が高いほど、母親の社会的孤立に起因する育児ストレスが軽減される可能性(Kusano et al, 2010)や、社会的要因に関する育児ストレスの軽減は、母親の精神的健康度を向上させる可能性が示唆された(草野ら、2010)。

近年、高齢者世代による地域における子育て支援活動への参画が進みつつあるが、これまでの関係者からの聞き取りによると、自治会を基盤とする組織やNPO法人など様々な組織体によって実施されているとともに、それぞれの活動上の悩みなども出てきている。しかしながら近年広がりつつある活動であるため、それらの地域組織活動上の困難点などの特徴を体系的に整理した研究はほとんどみあたらなかった。

また、子育てしやすいと感じる地域のつながり方については、密着度が強すぎるよりはややゆるやかなつながりの方が子育てしやすいと感じられる可能性が示唆されている(草野ら、2013)。しかしながら高齢者世代による地域のつながりを重視した子育て支援活動において、具体的などのようなつながり方によるプログラムが効果的であるかについて検討された研究はみあたらなかった。

2. 研究の目的

少子高齢社会における地域全体での効果的な子育て支援策の構築と、母親等の子育て世代および高齢者世代双方の健康・QOLへの寄与をめざし、本研究では、高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムを検討することを研究目的とした。

3. 研究の方法

(1) 高齢者世代による地域組織活動に関する現状と課題の整理

1つ目に先行研究調査結果を活用した分析により現状と課題を把握した。2つ目に文献研究を行い、高齢者による子育て支援活動に関する研究から、現時点でどのような子育て支援活動が行われているか、また、ハイリスク親子への支援も含めた子育て支援の可能性について把握した。

(2) 関係機関からの意見収集とプログラムの目的・対象者の焦点化

関係機関からの意見収集を行うとともに、これまでの先行研究もふまえ、研究代表者および分担者における議論を重ね、本研究で検討するプログラムの対象者と目的の焦点化を行った。

(3) 地域での子育て支援に意欲がある男性高齢者の特徴に関する分析

シニア大学での学習者1,092名を対象としたアンケート調査を行い、女性と比較した男性高齢者の特徴や子育て支援を含む社会貢献への関心度やニーズの特徴等について把握した。

(4) 男性高齢者対象研修プログラムの検討

男性高齢者を対象とした子育て支援者研修プログラムに必要な構成要素を抽出し、研究代表者および分担者にてプログラム案の検討を行った。

4. 研究成果

(1) 高齢者世代による地域組織活動に関する現状と課題の整理

先行研究調査結果を活用した分析による現状と課題の把握

先行研究にて実施した近畿2府4県における市区町村ボランティアセンターを対象とした高齢者世代が活躍する地域における子育て支援活動に関する基礎的な調査の結果を見直し、検討をすすめた。回答が得られた118センター（回収率36.4%）における平均登録団体数は59.1団体であり、そのうち子育て支援に関連する団体は平均7.4団体と全団体の12.5%であった。また約6割のセンターが、高齢者世代が中心となって運営している子育て支援団体からの相談を受けていると答えており、具体的には後継者や資金の不足、場の確保の難しさ、身体的負担などが挙げられていた。

文献研究による高齢者世代による地域での子育て支援の可能性の検討

まず、支援の対象となる親子の状況や抱える課題に限定を加えず、高齢者が行う子育て支援を取り扱った研究を広く検討した。その結果、地域で子育て支援を行う対象者とその支援内容の多様性が明らかとなった。多くは特に対象を限定しない一般的な子育て支援であったが、中にはハイリスク集団に対する支援を行っている高齢者もみられた。さらに、高齢者の子育て支援を促進する要因として、「子育て支援への意欲」「青年期におけるサポートの受領経験」「地域での支えあう関係性」などが挙げられていた。反対に阻害要因としては、「子育てに関する認識の相違」「支援を受ける子育て世代の態度」などが挙げられていた。この検討ではこの他に、高齢者による子育て支援を客観的に測定する研究方法の開発が進んでいることや、子育て支援を行う高齢者自身に及ぼす影響等についての示唆が得られた。

前述の検討で、何らかのリスクを抱える親子への高齢者による支援の可能性が示唆されたため、近年、増加傾向が指摘されるとともに、その障害特性が地域で理解されにくい発達障害を取り上げ、発達障害児と家族に対する地域支援の現状について文献検討を行った。その結果、個別的な直接的・専門的支援は必須であるものの、それだけではなく地域における間接的支援も含めた重層的支援の重要性が考えられた。さらに、発達障害児とその家族を支える多様な社会資源の存在が明らかとなる一方で、これらの社会資源が有機的に連携した地域ケアシステムの充実が必要と考えられた。この検討では地域支援を行う社会資源としては何らかの関係機関などフォーマルな資源に限定され、住民等のインフォーマルな資源に関する結果はみられなかった。特に発達障害についてはその障害特性の理解の難しさがあり、住民による理解の促進や積極的な支援を検討するにあたっては、障害特性を理解するための研修等の学習の機会が必要であったり、間接的に生活を支える支援など、一般的な子育て支援とは違った支援のあり方を検討する必要性が考えられた。

(2) 関係機関からの意見収集とプログラムの目的・対象者の焦点化

研究開始当初の目的として「高齢者が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラム」を検討することを目指して研究を進める中で、関係機関からの意見収集や研究代表者および分担者による検討を重ねた結果、上記プログラムは対象もねらいも非常に幅広いものであることが考えられた。そこで本研究でめざすべきプログラムの目的の焦点化をすすめた結果、地域のつながりを重視した子育て支援活動に取り組む意思のある高齢者対象の学習プログラムの開発に向けて取り組む必要性が考えられた。

さらに先行研究等をもとにした検討を重ねた結果、プログラム対象者の絞り込みの必要性が新たな課題として挙げられた。本プログラムでは最終的には子育て支援者となる高齢者自身の健康への寄与も念頭に置いていることから、高齢者の中でも、地域とのつながりが薄く、仕事からの引退後の生きがいづくりや健康保持が公衆衛生学上の課題となっている男性高齢者をプログラム対象者として再検討することとなった。また関係機関からの聞き取りやコミュニティ・エンパワメントに関する手法等から、「学習」という要素や生涯学習を行う人々への社会の人的資源としての期待を重視する必要性が考えられた。

(3) 地域での子育て支援に意欲がある男性高齢者の特徴に関する分析

前述の検討から、これからの地域での子育て支援の担い手として期待される人材として生涯学習を行う男性高齢者が考えられた。そこで、主にシニア世代の学びの場であるシニア大学等での学習者1,092名を対象とし、女性高齢者と比較した男性高齢者の特徴や子育て支援を含む社会貢献への関心度やニーズ等について把握する調査を実施し、766名（男性58.5%、女性40.8%）から回答を得た（回収率71.1%）。子育て支援へ既に参加している割合（参加率）や参加していないが興味・意欲がある割合（参加意欲）については、女性の方が参加率や参加意欲が高いことが予想されたが、参加率は男女とも7-8%で有意差がなかった。参加意欲がある者は女性79.5%、男性68.1%と女性の方が有意に多かったものの、男性も7割近い者が少なくとも興味を示していた。男性のみ抽出した分析において、現在は参加していない者は89.1%であり、そのうち、今後の子育て支援活動への参加意欲は、興味あり・参加したい・近々参加予定（参加意欲あり群）と答えた者が55.0%であった。さらに参加意欲あり群はなし群と比較して、平均年齢には有意差はなく、孫の世話経験や現在社会活動、地域貢献への興味、生涯学習への関心がある者の割合が有意に高く、社会活動に関する満足度が有意に高かった。参加意欲がある男性のニーズとしては、公的機関からの地域の子育て支援活

動に関する情報提供がもっとも多く、次いで、研修会・学習会への参加、見学の機会が多くなっていた。

(4) 男性高齢者対象地域子育て支援入門研修プログラムの検討

以上の結果から、地域での子育て支援に現在は参加していないが参加意欲がある男性高齢者を対象とした地域子育て支援入門研修プログラムに必要な要素として、主に次の内容が考えられた。

現代の親子を取り巻く状況と特徴の理解についての学習（見学機会含む）
支援を行う地域の状況と子育て支援活動に関する公的機関からの情報提供
社会貢献からみた地域住民による子育て支援の重要性についての学習
社会的活動・社会的つながりの意義と効果についての学習
多様な子育て支援活動の実際（直接的・間接的含む）（体験学習含む）
上記学習を通じた自分自身への効果の可視化 など

(5) 今後の課題

本研究期間では途中、対象者や目的の絞り込みなどを行った影響もあり、当事者である男性高齢者の意見反映や効果検証が残る課題となっている。また、公衆衛生的観点からの課題としては、対象となる親子や支援者となる男性高齢者自身の健康への効果検証も課題であり、今後、さらに検討していく必要がある。

また、本研究期間では、発達障害など何らかのリスクを抱える子どもとその家族への地域住民を含めた地域全体での支援の必要性と可能性について把握することができたが、その具体的方法の検討については、対象となる親子のニーズ把握等も含めて今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 草野恵美子, 鳩野洋子, 合田加代子, 中山貴美子	4. 巻 10
2. 論文標題 発達障害児とその家族に対する地域支援に関する研究についての文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪医科大学看護研究雑誌	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草野恵美子, 中山貴美子, 鳩野洋子, 合田加代子	4. 巻 9
2. 論文標題 高齢者による子育て支援に関する研究についての文献検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪医科大学看護研究雑誌	6. 最初と最後の頁 79-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 草野恵美子
2. 発表標題 障害児親子へのライフステージを通じた地域支援
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 草野恵美子
2. 発表標題 障害児親子へのライフステージを通じた地域支援
3. 学会等名 公開シンポジウム: 障害のあるこどもと親 それぞれの社会的自立~多様なあり方、多様な支援~ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 草野恵美子, 山埜ふみ恵
2. 発表標題 要介護予備軍と地域のつながりとの関連～自治体と連携した既存データ二次活用の試みから～
3. 学会等名 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山埜ふみ恵、草野恵美子、土手友太郎、吉田久美子、谷川ルツ子、阿部利奈、岸野裕方
2. 発表標題 介護予防に関する行動変容の段階別にみた地域高齢者の特徴
3. 学会等名 第74回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 草野恵美子	4. 発行年 2014年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 304 (1-15)
3. 書名 第1章ヘルスプロモーション(地域の健康づくり)1) 母子保健・子育て支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	鳩野 洋子 (Hatono Yoko) (20260268)	九州大学・医学研究院・教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 貴美子 (Nakayama Kimiko) (70324944)	神戸大学・保健学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	合田 加代子 (Gouda Kayoko) (20353146)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授 (34507)	